

単位数	教科担当者	使用教科書・補助教材・その他
1	碓井 晴夫 勝田 不学 森田 賢 早川 洋志 高橋 幸一 三浦 伊都子 木村 麻千子	自校作成テキスト 地域企業からの補助教材等
○必修 学校必修 必修選択 自由選択		

◆学習の目標

1. 社会の変化に対応するために、企業連携を通じた探究の過程において、課題発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、社会の変化のなかで学び続ける意欲と態度を理解する。
2. 将来の進路を見据えるために、企業人との体験的な活動を通して、情報収集や整理・分析を粘り強く行い、他者に対して、まとめ・表現を的確に伝える社会に必要な力を身に付ける。
3. 地域の抱える課題の解決に向けた探究活動に、主体的・協働的に取り組むとともに、互いに切磋琢磨することに喜びを見いだせる逞しさと、心身の健康管理ができることを考え、主体的に参画しようとする態度を養う。

◆主な学習内容・方法

1. 本校が作成したテキストに基づいて、課題解決のために必要な方法を学習する。
2. 企業と連携した探究活動を学習する。
3. 企業人講話から、実社会で求められる人物像と高校生活で身につける必要がある力を学習する。

◆到達目標と観点別評価の評価規準

1. 事象を科学的に見る力、論理的思考力、論理的記述力が身に付く。
 2. 質問する力が身に付く。
 3. デスカッションする力が身に付く。
- 〔観点別評価の評価規準〕
- 知識・技能
- ・自らが設定する課題とその課題を解決するための方策を理解できる。
 - ・企業連携での体験的な活動等を通じた情報収集の方法を身に付ける。
 - ・企業と探究してきたことによって、未来に生かすための高校生活を送る。
- 思考・判断・表現等
- ・企業の取組や効果等から得た知識を生かして、社会にできることを考え計画を立てる。
 - ・体験的な活動等を通して、取組内容や関係する様々な人の考えを適切な手段で収集する。
 - ・自ら得た情報に加えて、企業の取組と比較しながら、取組のよさや改善点等を分析する。
 - ・情報の収集、整理・分析を通して得た考えを自らの言葉で表現する。
- 学びに向かう力・人間性等
- ・自らの興味・関心を自覚するとともに、他者の多様な思いや考えを知り、他者を尊重し、理解しようとする。
 - ・協働的に探究活動に取り組む生徒や企業人から刺激を受け、自らの関心の高まりを自覚して主体的に取り組もうとする。
 - ・自らが実社会で何ができるかを考え進路選択に活用する。

◆年間予定授業時間

予定時数	35 時間	1 学期 (13 時間)	2 学期 (14 時間)	3 学期 (8 時間)
------	-------	---------------	---------------	--------------

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

予習	授業で扱う学習内容に取り組み、授業のテーマに即した取り組みとなるように、自らの考え方をまとめる。
復習	授業のテーマに対して、他者やグループの意見を振り返ることで、学習内容をまとめる。
宿題・課題	授業において、課題の進捗状況をもとに、他者やグループ毎で宿題や課題を決めて、見通しを立てた学習にする。

◆授業計画

学期	月	単元・教材等	単元ごとの時間数	学習の内容	学習到達目標
1 学期	4	・オリエンテーション	1	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間に対する取り組み方、学習計画、到達目標の理解 マインドマップ KJ 法 ロジカルシンキング クリティカルシンキング 企業と連携し、探究活動をするための学習方法や民間企業の方から、実社会で求められる人材と、高校生活で何をすべきかを学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> マインドマップを描くことで研究の方向性を決めることができる。 ブレインストーミングと KJ 法を用いて整理することができる。 論理ブロックの練習及び文章題を通して、ロジカルシンキングができる。 クリティカルシンキングを用いた資料データの検証や、クリティカルシンキングを用いた推理ができる。 相手の感情的な要素を理解し、体験をデザインすることで、サービスやシステムをデザインすることができる。 社会で求められる人材と高校生活で身につける力を理解することができる。
	5	・演習	8		
	6	・企業連携	4		
	7				
2 学期	8	・演習	4	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を作ろう 企業課題を解決しよう 企業の課題を見つけよう 中間発表 1 学期の企業による探究活動の学習方法を振り返り、より発展的な学習をする。 企業人講話 民間企業の方による講話を重ねることで、実社会で求められる人物像と高校生活で身につける力を学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> クリティカルシンキングや英語の論理的構造を活用して、自分の意見を根拠立て説明できる。 グラフの資料から、課題、課題の背景、課題解決の方策をまとめることができる。 個人で考えた課題を持ち寄り、グループ毎の課題（テーマ）を決定し、クラス内で共有することができる。 1 学期及び 2 学期の企業人講話から、社会における企業の実態、企業で支える人物像、高校生活で身につける力をまとめることができる。
	9	・企業連携	2		
	10	・テーマ研究	4		
	11		2		
	12		2		
3 学期	1	・発表	4	<ul style="list-style-type: none"> 最終発表 全体発表 企業連携によって、1 年間で学んだことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ毎で決めた課題（テーマ）に対して、課題の背景、課題解決の方策をクラス内で発表することができる。 グループ毎で決めた課題（テーマ）に対して、課題の背景、課題解決の方策を学年で発表することができる。 企業連携による、探究活動に活用することができる。
	2	・企業連携	4		
	3				